

# 3学科の特色とチームアプローチ

理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、言語聴覚士(ST)を養成する3学科では、  
 体や心の障がいに応じた専門性の高い医学的リハビリテーションを学びます。  
 専門知識や技術はもちろん、患者さんの“こころ”にアプローチできるセラピストの養成をしています。

## ■ チームアプローチ

医療の現場では、さまざまな知識や技術を持つプロたちが、専門分野を生かしたチームを組んで患者さんの治療にあたります。これをチームアプローチと呼び、本学院では専門科目のほか、3学科合同の演習や講義を設けて、医療現場でのコミュニケーション能力を実践的に身につけます。



## ■ 理学療法士の仕事とは？

病気や障がいなどで後遺症を持つ方に、運動療法および物理療法を用いて、身体機能や能力の改善を図る専門職(国家資格)です。  
 具体的には歩行などの基本的動作や日常生活活動を改善するためのさまざまな治療・援助を中心に、福祉用具の選定や住宅改修・環境調整、在宅ケアなども行っています。



### 事例への理学療法士のアプローチ

脳卒中により障がいが出た場合、手足の麻痺(例えば右片麻痺)を生じ、手足を動かしにくくなり、日常生活におけるさまざまな動作が不自由となります。それらを改善するための治療・援助を行い、必要に応じ物理療法(電気・温熱など)を用いた治療も行います。

Approach

## ■ 作業療法士の仕事とは？

こころや身体に障がいのある方や予測される方に対し、主体的な活動ができるよう、さまざまな作業活動を用いて治療・援助する専門職(国家資格)です。

作業療法を通して、運動・精神機能、日常生活動作能力、社会的適応能力などの維持改善を目指します。



### 事例への作業療法士のアプローチ

左中大脳動脈の脳梗塞では、「右手足の麻痺」に加え、使い慣れた道具の使い方が分からない「失行症状」が出現します。また、障がいを持つことによる精神的なショックを受けます。そのため、患者さんの気持ちに寄り添いながら、食事や調理といったその人が日頃行っている作業に対してアプローチすることで、役割の再獲得や就労などの社会復帰を支援します。

Approach

## ■ 言語聴覚士の仕事とは？

「コミュニケーション」、あるいは「食べる」(嚥下・咀嚼)ことに問題がある方に対し、必要に応じて訓練・指導・助言その他の援助を行い、自分らしい生活を構築できるよう支援していく専門職(国家資格)です。



### 事例への言語聴覚士のアプローチ

左中大脳動脈領域には、言語中枢という「ことば」をつかさどる場所があります。そこに障がいがあれば「失語症」になる可能性が高まるので、まずは病巣を確認し、検査をするなどしてタイプや重症度を判断し、予後や訓練内容を検討する療法を行います。

Approach

### 事例：脳梗塞障がいが起こったら(左中大脳動脈領域)

脳梗塞とは、血栓が脳の血管に詰まり、その先の脳細胞に酸素や栄養を運ぶことができなくなって脳がダメージを受ける病気です。急性で起こった場合、日本人の死因の第三位を占めるまでになっています。

なかでも左中大脳動脈領域での脳梗塞は、右半身のしびれや麻痺が起こり、歩行が困難になります。ほかにも発音の障がいや失語症などが生じたりします。このため、急性期より、回復期、生活期まで理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による適切なアプローチが必要です。